

令和4年度 施設長会（12月） 会議資料

（川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会）

— 議 題 —

- 1 各プロジェクト委員会の進捗状況について …資料1
- 2 施設長会での情報交換について
- 3 役員改選等について …資料2
- 4 神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会について
 - (1) 課題別プロジェクト会議（介護報酬改定・人材確保・災害）について …資料3
 - (2) 第21回かながわ高齢者福祉研究大会について …資料4
- 5 関東ブロック老人福祉施設連絡協議会について …資料5
- 6 【中間報告】第3回神奈川県特養実態調査（川崎市版）について …別添資料1
- 7 その他
 - ・令和4年度 第2回 新人・新任介護職員向け実践研修について …別添資料2

各プロジェクト委員会の進捗状況について

1 災害プロジェクト委員会

(1) 委員会等実施状況

第5回 / 12月13日(火) 10時～ ※班長会議と合同開催

協議概要：

①災害に関する研修会(11/28)について

→ 次頁以降参照

※動画配信については、施設長会終了後、各施設あてにメール送付予定

②施設間連携及び情報共有について

- ・ E-Welfiss 及び防災無線機を活用した情報伝達訓練の実施について(12/22)
- ・ 非常災害時の相互の応援に関する規約、防災組織に関する規約 (事業協会)

→ 災害に関する研修会での情報交換を契機として、今回はその情報交換に参加していた多摩区・麻生区の施設を中心に、情報伝達訓練とあわせて物的支援のシミュレーション訓練を行う。

※今後の相互応援体制を構築するにあたり、区域・市域でのシミュレーション訓練に資するものにするため、当日の様子は参加施設の了解の上、記録(写真や映像)し、後日情報共有する予定

③その他

- ・ 実態調査から見る市内施設の BCP 策定状況について、
回答施設のうち、事業継続計画(BCP)を「作成まで完了」している施設は 25 施設

→ 平成 27 年度に「防災に関する実態調査」を行い、調査結果を基に

- ①事業継続計画(BCP)作成のための研修会・学習会等の実施
- ②各施設間・他機関等との災害時の協定の締結(協力体制の構築)に向けた検討
を大きな目的として活動してきた。

実態調査の結果から市内施設の BCP 策定状況を分析し、次年度の研修会等の内容や今後の災害プロジェクト委員会の活動につなげていく。

(2) 次回

第6回 / 1月31日(火) 14時～

※班長会議と合同開催

報告書 災害に関する研修会 「災害時等における会員相互協力体制について」

1 日時

令和4年11月28日（月）14時～16時30分

2 方法

オンライン

3 主催

（社福）川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会災害プロジェクト委員会

4 共催

（社福）川崎市社会福祉協議会 法人経営者部会

5 参加者

33件 ※内訳は下記参照

老人分野	保育分野	障害分野	児童分野	その他
27	3	0	1	2

6 内容


講師：板橋区社会福祉法人施設等連絡会（板橋区社会福祉協議会）

- (1) 講話「災害時等における会員相互協力体制について」
- (2) 質疑応答
- (3) 情報交換（近隣施設・ブレイクアウトルーム使用）

7 当日の様子

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人施設協議会
「災害に関する研修会」


災害時等における会員相互協力体制について
～板橋区社会福祉法人施設等連絡会の取組み～



令和4年11月28日

社会福祉法人 板橋区社会福祉協議会

経営企画推進課 経営企画推進係長 一島 秀樹
（板橋区社会福祉法人施設等連絡会事務局）



8 情報交換（一部抜粋）

○川崎区、幸区

- ・令和元年東日本台風の際に同法人内の施設が被災し、その際には皆様ご協力いただき、ありがとうございました。法人本部がいち早く現場視察を行い、陣頭指揮を執り、人的物的な支援、法人内職員や多くのボランティアの方にも応援していただいた。
- ・あの時は局地的な被災だったので、被災していない地域は本当に普段の暮らしのまま、被災地域はインフラも全てダメになってしまっていた。これが広域的な災害だったらどうになってしまうのだろうかと怖く感じている。
- ・今回の板橋区も山間部と川沿いがあるとの話があり、川崎市と似ているなと思った。ただ、川崎は南北に細長いので、区内はもちろん、区をまたいでの繋がりや連携体制を構築していくことが課題だと思います。
- ・法人間連携として、コロナで応援職員を出せるかどうかは法人内でやっている。災害時にインフラがダメになってしまった場合には、勤務施設ではなく、職員の居住地に一番近い施設にとりあえず集合することのマッピングを行った。
- ・法人内施設長の LINE グループを作られたので、今後はそういったもの使っていくのではないかとこのところである。
- ・同じ法人内の施設であっても、コロナ禍のため、合同訓練等も行うのが難しくなっている状況である。法人内の施設長会を行っている。
- ・災害時には自分と家族の安全が守れたら、勤務施設ではなく、職員の居住地に一番近い施設に参集（出勤）することを新入社員向けにも BCP 含め説明している。
- ・法人内職員に対して、どこに参集するかということはまだ出来ていない。具体的には法人内の施設長や副施設長、相談員が助け合うことは認識している。水害の影響はあまりないと思っているが、実際には市内半分程度に被害が出る可能性はあるので、市内連携を深めていきたい。
- ・講師の話の中でも個別支援計画と福祉避難所の話が出ていたが、川崎市でも先日説明会があり、施設とケアマネジャーの関係など、危惧する部分もいくつかある。
- ・予測できる台風時には施設内に泊まっている施設長も多いのではないかと。また事前に被害が出る前に施設長や権限がある人たちでやり取りが出来れば、車両を何台か避難させるなど、やれることもあると思う。
- ・施設間連携については、具体的どころ（人的・物的な支援）を共通認識として考えていかなければならない。
ただ、災害時の状況により異なることが往々にしてあると思うので、状況に応じて判断していくことが大事である。
また、各施設内での権利委譲を確認しておくと（施設長が不在の場合には副施設長、副施設長が不在の場合には相談員）施設間連携がその場で上手く動くのではないかと。誰に言えば、相談すれば、物事が動いていくのかが大事である。
- ・令和元年東日本台風で市内施設が被災したこと、そしてその経験を施設長会や研修会等でも聞いている私たちは、その経験を活かしてこの施設間連携を含め災害に取り組むことが大切である。

○中原区、高津区、宮前区

- ・ 個別避難計画や二次避難所等 いろんな受入の枠ができてしまっており、施設内で例えば3～5枠の受入と考えているが、どれかが受入できないということが想定されるかと思い、そのあたりの検討が必要かと思ったところである。
- ・ E-Welfiss について、施設内でも今年中に全員が使えるようにしようと思っている。使い慣れていき、連絡体制（他施設・行政との連絡）がスムーズにとれるようになるとういと思っている。
- ・ 大震災が起きた際は、道路の寸断やライフラインが全部止まったり等いろんな状況があり難しい動きになるかとは思いますが、風水害等では、ある一定の期間が経過すればということもあるかと思うため、平時（通常時）に、どの施設とどのような形で助け合うことができるかをやはり行っておくべきかと思った。
- ・ 風水害が起こった時や予測される時等、避難するかしないかの判断のタイミングが難しいだろうと思う。実際に他施設に移すとなると大事であるので、その判断が難しいと思う。また、受入側の方も、いろんなことを行っている中で、受け入れの判断をしなければいけないため、時間的にも、ギリギリまで待つとなると、すぐに判断しなければいけないとなってくると難しくなってくるかもしれない。道路の状況等もあるため、利用者を移すようであれば、平時から、道路のこと等もあるので、この施設からこっちの施設だよね等とある程度想定しておかないと動けないと思った。
- ・ 高台にあるので、もし児童の分野で得意なことで、高齢者施設に貢献できることがあれば教えていただければありがたい。
- ・ 養護老人ホームで職員数が非常に少ないため、要介護の方の受入ができるかどうかと考えてしまい、受け入れて自施設の職員が対応するのは現実的ではないかとも考えた。考えた内容としては、満床にはなっていないため、スペースをお貸しすることはできるのではないかと考えている。市の建物の為、川崎市に確認が必要ではあるが、例えば1区画を被災された施設にお貸しし、職員さんも一緒に来てくれるようであれば、大丈夫ではないかとイメージした。
- ・ 法人間等の連携は、事前の調整や行政等いろんなところを巻き込んだ連絡調整が必要となってくると思っており、そこをクリアしていくということが1つ大切なことであると思っている。
- ・ 自施設ができることとして考えたこととしては、川崎市はハザードマップが丁寧に作られていると思っているため、施設の状況を確認した上で、事前にできることは何だろうか、判断のタイミングはどうすればよいか等、自施設でもBCPに添った決定や事前訓練等を行っておいた方がよい。災害は、急に起こったり、人がいる・いない等に関わらず起こるものであるため、事前訓練等を繰り返して行い、又、それを広げていければよいと思っている。
- ・ 実際に流れを踏んでみないと、なかなか課題が見えてこないと思うため、コロナで訓練が難しいところではあるが、板橋のように2施設位で実際にやってみて、それをみんなで見えてイメージして、そこから課題を抽出できたらよいと感じた。

- ・現状では、高齢者施設間での連携が考えられているところではあるが、区によっては、又、施設によっては、当然近くの他分野の施設との連携を構築することもあるだろう。（例えば、自施設（特養すえなが）は隣の敷地がヒルズすえながであり、同じ備蓄品をそれぞれで用意するよりは、担当分けをしたほうが合理的にも感じた。）
施設だけではなく、近隣の自治会・町内会とのつながりや、近隣企業・労働組合等との連携をとられているところもあるだろう。できるところから行っていくことがよいかと思う。
- ・このグループに参加している施設は、水害で被災することがあまり考えられない施設かとも思い、むしろ、高津や多摩川沿線等の被災された施設の方を応援体制として受け入れるところになるかと思った。そうなると、区だけではなく、離れた地域の特性を互いに共有しながら連携を図っていないといけないと思った。
- ・二次避難所や個別避難計画等もあるが、大震災となると、優先される利用者を考えていかないと、現実的に混乱してしまうかとも思っている。優先順位をどのようにはかかっていくかも課題である。
- ・大震災の際は、道路の寸断等もあり、職員自身が被災する可能性もある。施設自体が出勤できる職員を確保できるかという課題もある。送迎するまでの余力も出てこない等ということもあろう。課題を挙げていくとできないことばかり出てきてしまうが、そうではなく、あらかじめどうするか、ということを考えていきたい。
- ・例えば、交通規制を解除してもら（各施設1台は優先的に許可車輛として指定）、かつ、消防や警察車両と同様にガソリンも優先的に供給してもらおうというようなところを行政が間に入るといことが横浜市のやり方のようなのである。川崎市も同じようにお願いしていきたいと思う。
- ・今の段階では、地震の前に、台風等の風水害の方が可能性が高いところから、そちらを優先し個別避難計画が出てくるのだと思う。
- ・受入側としても、二次避難所の連絡会議等あっても、なかなか方向性が見えてこず、どうしていけばよいかと悩んでしまうところもあるため、一緒に整理していかなければいけないと感じる。
- ・二次避難所ですと言っている、普段お付き合いのある隣近所の方が助けてくれという風に来られたら、ここは福祉避難所ですからと断る訳にはいかない。そのようなところも含めて、交通整理する板挟みに施設がなってしまつては。ましてや夜勤帯でそのような事があつては夜勤の職員が気の毒になってしまう。BCP内にそのような判断の一助になるようなものを盛り込むような努力はしていきたいと思う。
- ・被災された方が施設にいらっしゃることになると思うが、自施設にはいろんな理由で入所されている方がおり、ここにいることを伏せておいてほしいと仰る方もいるため、情報の保護等をどのようにマネジメントしたらよいか感じたところである。
どこで個人情報が出てしまうかわからないということには配慮が必要である。

○多摩区、麻生区

- ・ 近隣の施設との連携は課題。 老健、病院にはお邪魔することはあるが、同じ特養にお邪魔する機会はない。施設は麻生区にあるが、多摩区施設とも連携できればと思っている。
- ・ 1 法人 1 施設であるので、横の繋がりが無い。母体は横浜市緑区にあり、相互応援等もできていない。近隣施設と協力体制を取っていきたいと思っているところだが、1 法人複数施設の施設には遠慮があり、二の足を踏んでいる状況である。複数施設を持つ法人内では、横のつながりを作るうえで、優先順位等どのにしているのか伺いたい。
- ・ 本法人はグループ化しており、その中に医療法人もある。規定はないが、災害時には食事・防災用品等、応援してもらえるのではないかと。(2 年前、電気系統のトラブルで停電した際には、法人本部が調整し物資の応援があった。少しは応援体制ができていると思う)
- ・ 1 法人 1 施設なので、連携は取れていない。
- ・ 1 法人複数施設の施設では、グループ内で連携があると思っており、同じ“1 法人 1 施設”施設にアプローチした方がいいのかと思っている。
“1 法人 1 施設”同士のグループを作ってみてもいいのではないかと。
- ・ 情報伝達訓練や E-Welfiss の習熟度を上げ、上手く使っていくと、1 法人 1 施設であっても声が出しやすくなり、施設間連携が出来るのでは。
- ・ 「1 法人 1 施設の会」で、「協力しようかな」と共通認識ができればいい。
- ・ グループ化しているので難しい部分もあると思うが、多摩区・麻生区等の近隣施設からヘルプがあれば、お互い様なので応えていきたい。近隣として、1 法人 1 施設の会にも参加したいし、情報共有もさせていただきたい。
「1 法人 1 施設の会」、はきっかけ作りになるのではないかと。
- ・ 「1 法人 1 施設の会」、賛同する。立地として、生田まほろばが近い。特養同士の交流はない。物資の交換、訓練等は、すぐにでもできそうなイメージが湧いている。
- ・ 本日のこの 4 施設で物資（水・食事等）を持参して実施してみるのはいかがでしょうか。利用者の運搬などは入念な準備が必要となるので、まずはやりやすいところから。次回の情報伝達訓練の日までに自分がたたき台を作るのでいかがかと（一同賛同）

9 アンケート結果

回収数：10（回収率30％）

1. 今回の研修会はいかがでしたか？【研修の理解度・満足度】

理解度				
とても理解できた 4	理解できた 5	普通 1	やや理解できない 0	理解できない 0
満足度				
大変満足した 2	満足した 8	普通 0	やや不満足 0	不満足 0

2. BCPの策定状況について教えてください。

既に策定し、訓練（検証）を行っている	2
策定したが、訓練（検証）までは行えていない	6
これから策定する	1
策定する予定はない	0
その他 ・今年度内の策定を目標としています	1

3. 今回の研修会についてのご意見及びご感想をご記入ください。

- ・先進的な自治体の先行事例について伺えたので、大変参考になりました。
- ・具体的にどのような連携を行っているのか、など大変参考になるお話しでした。
特に、実際の入居者に協力していただく合同避難訓練については、自施設が受け入れる側であった場合にどのような手順で行うべきかイメージが膨らみ、勉強になりました。
- ・どこも模索しながら取り組んでいるのが良く分かりました。人的繋がりが大事になるので、板橋区のように施設同士、施設と地域など、繋がりが深まるよう川崎市でも出来ることからコツコツと行っていくことが必要だと思いました。コロナ禍で状況を見つつにはなっていますが、直接訓練を実施したり見学することで、課題等見つけていくきっかけが作れればと感じました。
- ・麻生区内の他施設の参加がなく、近隣相談が出来ないことが残念だった。
隣の区に参加させていただき、近隣連携の足掛かりの相談ができ、良かったです。

- ・法人同士の協力体制への足掛かりとなりそうな情報交換が出来たと感じています。
- ・グループワークにて、川崎市内も高低差が大きいので高台に立地する施設は受け入れ側となる
との話があり、弊所は実際に（秘匿性の面で）受け入れることができるかどうかは別として、
立地条件では受け入れ側になることが期待される立地であることを職員が自覚しておくこと
は大切だと感じた。
- ・意見交換会は多忙な中だが、もう少し時間が欲しいと思う。
各法人の取り組みも、もう少し聞いてみたい。
講話については「社福連」の活動が興味深かったが、
事業ごとの壁と行政縦割りは少しずつ緩むと良いなと感じる。（川崎市も）
- ・地域相互応援については、多くの方が賛同していただけたと思うのですが、なかなか実施まで
には至らないと思われます。板橋区社協における相互協力の推進の中心にあった方の、苦労談
も聞いて、参考にさせていただければと思いました。研修ありがとうございました。
- ・施設間の連携は、具体的な内容を詰めておかないと現実的に動けないと感じました。

4. 次回以降の研修会で取り上げたいテーマがございましたら、希望されるテーマ及び理由、施設
での現状等をご記入ください。（例）被災した際の他都市職員の受入れ、BCP（事業継続計画）
の策定、既存のマニュアルを用いた図上訓練、福祉避難所 等々

- ・図上訓練というものについては触れたことがないので、学んでみたいと考えています。
それと同時に実地の訓練も必要と考えていますが、現状はすべて「コロナ」という言葉一つで
必要な行動を遠ざけてしまう雰囲気があるので、悩ましいところです（施設内も施設外もです）。
- ・福祉避難所開設について
先日、近隣の避難所開設訓練に参加したが、
二次避難所に来た方を逆にトリアージしていく必要性を感じたので、準備しておきたい。
- ・法人間連携について（今できること・・・）
- ・災害対策チームを作り取り組みはじめたところです。
保育園の具体的な取り組みがありましたら、研修で取り上げて欲しいです。
- ・区内のマップがあり、視覚的にどこにどこの施設があるのかがわかると今後の連携を深めていく
際にも良いと思います。

2 人材プロジェクト委員会

(1) 委員会等実施状況

① 人材プロジェクト委員会 ※奇数月第3水曜日の午後2時から開催（原則）

第4回 / 11月24日（木）14時～16時

協議概要

人材プロジェクト委員会での今後の取り組みについて

令和4年度 人材プロジェクト委員会 各項目の取り組み状況

（第4回委員会）

人材発掘		取り組み状況
①	小中学校、小中学生に向けての取組(ガイドブック広報・オンライン交流など)	玉川小学校4年生3クラスとのオンライン交流 ガイドブック広報(5/2 中学校長会 5/9 小学校長会)
②	高等学校、高校生、大学、大学生に向けての取組 (キャリアガイダンスやアルバイト情報等の広報)	市内高校定時制職員との打合せ (7/28, 9/13, 10/6) 学生アルバイト雇用状況の調査
③	地域の介護(福祉)人材発掘に向けた体制づくり (区社協等との協働)	担当委員間による打ち合わせ(9/21, 11/9)
④	関係機関(ハローワーク等)との連携・協力→説明会、相談会への協力	『福祉の仕事』説明会・相談会 (5/27, 7/8, 9/16, 11/16)
人材確保		
①	外国人介護人材に関する情報交換会を開催 (既に外国人人材の受け入れ等を始めている施設のお話 他)	担当委員間による打ち合わせ(6/27) 外国人人材の積極的な受入施設へのヒアリング(7/4)
②	多種多様な働き方(シニア層、障害者雇用等)をしている施設の紹介	担当委員間による打ち合わせ(9/12)
③	他都市の人材確保に成功した取組みについての情報収集、提供	「政令指定都市が実施している介護人材確保・定着事業について」(第3回委員会資料)
④	他都市の新型コロナウイルスを踏まえた求人活動について	
人材育成・定着		
①	既に働いている職員を対象とした研修の検討や研修参加促進に向けた取組	担当委員間による打ち合わせ(9/6)
②	自施設での人材育成・定着に目を向けられるような施設長への働きかけ	
③	職員の負担軽減のための介護福祉機器・ロボットの導入について	川崎市複合福祉センターにて概要説明と福祉機器導入について情報交換(9/16)

② ハローワークとの打合せ

日 時：10月5日（水）10時～11時30分

会 場：エポックなかはら 5階ボランティア交流室

内 容：今後の福祉の仕事説明会・相談会について

ハローワークでの福祉の仕事説明会・相談会について（変更点）

【これまで】9月16日開催分まで

説明会

内 容：

- (1) 市社協（老人福祉施設協議会）について、
福祉の仕事・資格の案内
- (2) 施設でのケアの実際
- (3) 福祉の現場からの声
※参加施設の募集を行い、オンライン参加していただく。
人材プロジェクト委員会のメンバーが会場から質問を投げ掛ける
- (4) 市内社会福祉施設の求人情報の提供 ※人材バンク

時 間：60分

相談会：説明会同日に、相談用ブースを設置して、

求職者がその場で参加できるよう出展

※出展法人・施設には求職活動が可能

時 間：90分

説明会（60分）

相談会（90分）



【今後】11月16日開催分から

説明会

内 容：

(1)～(3) 従来通り 時間：1時間10分

→ (4) の説明は (1) で行う。

オンライン終了、各会場（北部、南部）に分かれて

+ (4) 参加法人・施設が参加者に説明を行う時間を設ける

時 間：1法人・施設 5分×6施設を想定（30分）

・勤務地

・施設の様子

・勤務形態

・募集している職種 等

時 間：1時間40分

相談会：説明会同日に、相談用ブースを設置して、

求職者がその場で参加できるよう出展

※出展法人・施設には求職活動が可能

時 間：50分

説明会（1時間40分）

相談会（50分）

② ハローワーク「福祉の仕事」説明会報告

日 時：11月16日（水）13時30分～15時10分

会 場：①ハローワーク川崎（参加法人）セイワ、和楽会、母子育成会

②エポックなかはら（参加法人）高津百春会、寿楽園、美生会、子の神福祉会、藤英会

参加者：①15名（就職相談会 15名） ②14名（就職相談会 6名）

(1) 川崎市社会福祉協議会（老人福祉施設協議会）について、福祉の仕事・資格の案内
市内社会福祉施設の求人情報の提供

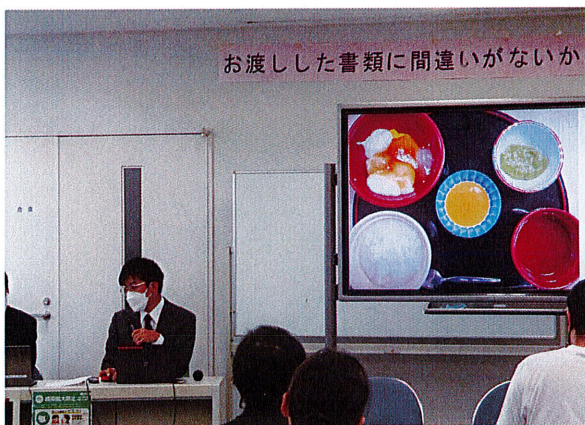
(2) 施設でのケアの実際

講師：人材プロジェクト委員会 古敷谷委員長

(3) 福祉の現場からの声 ※施設、在宅

司会：人材プロジェクト委員会 伊藤施設長

【ハローワーク川崎会場】



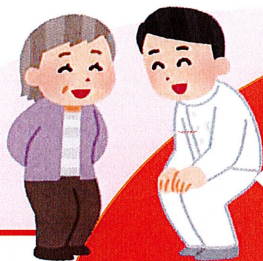
【エポックなかはら会場】



(2) 次回の予定

ハローワーク「福祉の仕事」説明会 / 1月13日（金）13時30分～

委員会（第5回） / 1月18日（水）14時～



今、求められています！

介護のしごと 説明会・相談会

日時：令和5年1月13日(金)

13:30～16:00

(13:00～受付開始)

- ☆ 介護セミナーの再受講は不可。
- ☆ 当日体調不良の方は参加をご遠慮下さい。
- ☆ 当日はマスク着用で参加をお願いします。

対象者 ハローワークに登録があり福祉職での就職をご検討中の方。

定員 各会場25名(要予約)

会場 ①ハローワーク川崎 6階大会議室
②エポックなかはら 川崎市総合福祉センター
6階研修室(川崎市中原区上小田中6-22-5)
JR武蔵中原駅 徒歩1分

就職氷河期世代の方もお気軽にご参加ください

★お申込みは各相談窓口へ★

- ①ハローワーク川崎会場：ハローワーク川崎
- ②エポックなかはら会場：ハローワーク川崎北
(お申込み後欠席される場合は必ずお知らせください)



相談会で1施設以上ご相談の方に
いずれか1点プレゼント！！



当日の流れ 第二部相談会からの参加も歓迎！

●第一部 説明会

(ハローワーク川崎会場ではZOOMによるビデオ視聴になります)

介護の仕事・資格の説明や介護の現場からの声などをお送りします。
その後、各会場で当日の相談会参加施設の紹介があります。

●第二部 相談会

紹介状・履歴書不要 服装自由

各参加施設のブースで
個別に相談・面接ができます。
6施設が参加予定です。

参加予定施設はこちらから
ご確認ください



※このセミナー参加は求職活動になります。

◆お問い合わせは◆

- ①ハローワーク川崎会場：ハローワーク川崎 人材確保対策コーナー
電話 044-244-8609(45#)まで
- ②エポックなかはら会場：ハローワーク川崎北 人材確保対策コーナー
電話 044-777-8609(47#)まで

(令和 3 年度施設長会資料)

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 各部会正副部会長（施設部会各協議会正副会長含む）の任期について

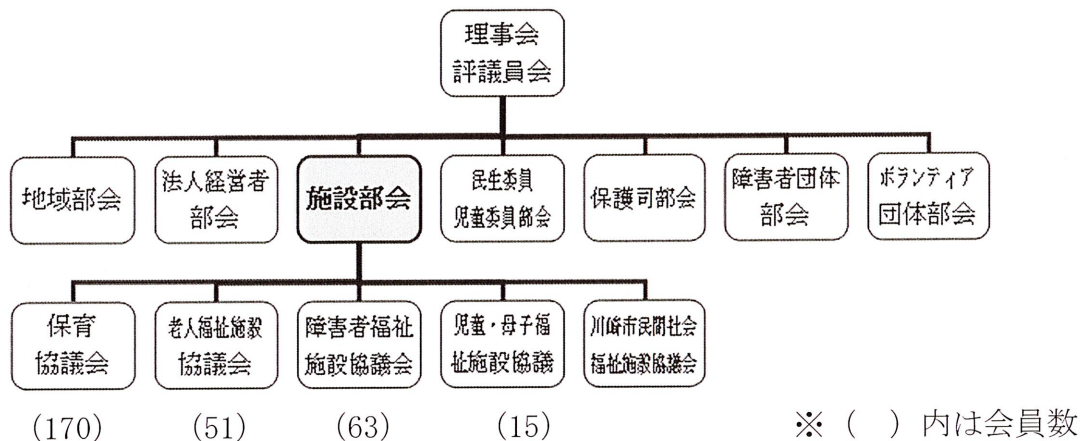
1 内容

川崎市社協の各部会正副部会長（施設部会各協議会正副会長含む）の任期については、社会福祉法人川崎市社会福祉協議会部会規程第 3 条第 4 項により、2 年となっております。

ただし、平成 29 年 4 月改正社会福祉法の施行もあり、各部会正副部会長（施設部会各協議会正副会長含む）の任期と市社協理事の改選年度が異なっておりました。

つきましては、施設部会を含め 7 つの部会の任期を本会理事の改選年度と揃えるため、令和 4 年度の役員改選における任期に限り、2 年から 1 年に短縮することとする。

(参考) 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 組織図



(参考) 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 部会規程（抜粋）
（正副部会長）

第 3 条 各部会に部会長 1 名、副部会長 2 名以内をおく。

2 部会長は会務を統括し、副部会長は、部会長に事故あるとき代行する。

3 正副部会長の選任は、各部会において互選とする。

4 正副部会長の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。補欠により就任した場合は、前任者の残任期間とする。

(参考) 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 理事等の任期について

種類／年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
理事		←→	←→	←→	←→
各部会正副部会長 (各協議会正副会長)	←→	←→	←→	←→	←→

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
役員改選等のスケジュールについて

令和4年度

	会議	役員改選	委員改選（災害P・人材P）
12月	施設長会 (12/21(水))		委員募集方法の確認
			委員の募集案内 《募集期間》 12/26(月) から 1/20(金) まで
1月			募集状況を各施設へ報告 (1/31(火))
2月	施設長会 (2/15(水))	会長選任方法の確認	新委員の報告 ※新委員の任期は4/1～
		会長立候補者の募集案内 《立候補期間》 2/20(月) から 3/3(金) まで	
3月		立候補状況を各施設へ報告 (3/8(水))	
		会長候補者の推薦依頼 ※立候補者がいない場合 《推薦期間》 3/13(月) から 3/24(金) まで	
		推薦状況を各施設へ報告 (3/29(水))	

令和5年度

	会議	役員改選	委員改選
4月	正副会長等会議 (4/) ※現行役員		
	施設長会 (4/19(水))	会長の選任	
5月		新役員体制状況を各施設へ報告 (5/31(水))	
6月	正副会長等会議 (6/) ※新役員候補者		
	施設長会 (6/21(水))	副会長等の選任	

会員施設 各位

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会
施設部会 老人福祉施設協議会
会 長 清 水 完 敏
(公 印 省 略)

川崎市社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会『災害プロジェクト委員会・
人材プロジェクト委員会』の任期満了に伴う委員募集について（依頼）

日ごろから、川崎市社会福祉協議会施設部会の老人福祉施設協議会の運営及び諸事業の推進につ
きましては、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本協議会では『災害プロジェクト委員会（平成 2 7 年度～）』・『人材プロジェクト委員会
（平成 2 9 年度～）』を設置し、発災時における各施設の連携や相互支援等に向けた検討や取組み、
新しい福祉人材の育成及び確保等に取り組んでおります。

つきましては、両プロジェクト委員会の任期が満了することに伴い、次のとおり委員募集を行
いますので、本委員会の活動趣旨をご理解の上、是非ご参画くださいますようお願いいたします。

1 委員任期

2 年（令和 5 ・ 6 年度）

2 応募方法

同封の応募用紙に必要事項をご記入いただき、令和 5 年 1 月 2 0 日（金）までに F A X または
メールによりご連絡くださいますようお願いいたします。

3 委員の選任

本協議会会員施設からの公募による選出を行い、本協議会会長が委嘱します。

4 同封資料

- (1) 災害プロジェクト委員会設置要綱・人材プロジェクト委員会設置要綱
- (2) 令和 3 ・ 4 年度委員名簿（災害プロジェクト委員会・人材プロジェクト委員会）
- (3) 委員応募用紙

（お問い合わせ先）

施設事業部 施設事業推進課 担当／松永

T E L 0 4 4 - 7 3 9 - 8 7 1 7

F A X 0 4 4 - 7 3 9 - 8 7 3 7

メール shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
災害プロジェクト委員会設置要綱

(趣 旨)

第1条 この要綱は、川崎市社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会（以下、「本協議会」という）災害プロジェクト委員会（以下、「本委員会」という。）の設置運営等に関して必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 本委員会は、本協議会の会員施設が発災時にも業務を継続して運営出来るよう、また市内の高齢者施設が連携することにより、利用者への安定したサービスが継続出来るよう、つぎの事項について検討する。

- (1) 職員の安全と行動に関する事
- (2) 利用者の安全とサービスの継続に関する事
- (3) 施設機能の維持と機能低下の予防に関する事
- (4) 市内会員老人福祉施設との連携に関する事
- (5) その他本委員会が必要と認めた事

(構 成)

第3条 本委員会の委員は次の者とし、概ね10名程度の委員を以て構成する。

- (1) 本協議会会員施設（施設長又は施設運営に関わる役職員） 7名程度
- (2) 委員の構成は川崎市内をいくつかのエリアに分け、それぞれの特性を考慮し選出する
- (3) その他本協議会会長が必要と認める者

2 本委員会の委員は会員施設からの公募による選出を行い、本協議会会長が委嘱する。

(役 員)

第4条 本委員会には委員の互選により、委員長1名及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は本委員会を代表し、会の円滑な運営に努める。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は2年以内とし、本協議会会長が定めた期間とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 任期途中で欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第6条 本委員会は委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員長が必要と認めるときは、本委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。
- 3 本委員会で検討された事項は、直近の施設長会での報告を行い、必要に応じた協議を行う。

(事務局)

第7条 本委員会の事務局は、川崎市社会福祉協議会福祉部施設団体事業推進課に置く。

(その他)

第8条 この要綱を変更する場合は、施設長会において決定するものとする。

- 2 この要綱に定めるもののほか、本委員会の運営に関し必要な事項は、本協議会会長が別に定める。

附 則

この要綱は平成27年6月17日から施行する。

この改正要綱は令和3年2月17日から施行する。

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
人材プロジェクト委員会設置要綱

(趣 旨)

第1条 この要綱は、川崎市社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会（以下、「本協議会」という。）
人材プロジェクト委員会（以下、「本委員会」という。）の設置運営等に関して必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 本委員会は、川崎市内の老人福祉施設のこれからの運営を担う新たな福祉人材の発掘及び育成
とともに、既に働いている福祉人材がその専門性を活かして生き生きと活躍し、やりがいを持って働
き続けられる環境を構築していくため、次の事項について検討する。

- (1) 新しい福祉人材の発掘及び育成に関すること
- (2) 市内で既に働いている福祉人材の養成及び定着に関すること
- (3) 介護福祉士養成校等との連携に関すること
- (4) 市内福祉人材養成関係機関との連携に関すること
- (5) 市内会員老人福祉施設との連携に関すること
- (6) その他本委員会が必要と認めたこと

(構 成)

第3条 本委員会の委員は次の者とし、概ね10名程度の委員を以って構成する。

- (1) 本協議会会員施設（施設長又は施設運営に関わる役職員） 7名程度
- (2) 川崎市社会福祉協議会施設事業部福祉人材バンク 1名
- (3) 川崎市社会福祉協議会施設事業部総合研修センター 1名
- (4) 川崎市健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課 1名
- (5) その他本協議会会長が必要と認める者

2 本委員会の委員は会員施設からの公募による選出を行い、本協議会会長が委嘱する。

(役 員)

第4条 本委員会には委員の互選により、委員長1名及び副委員長2名を置く。

- 2 委員長は本委員会を代表し、会の円滑な運営に努める。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故
あるときはその職務を代理する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は2年以内とし、本協議会会長が定めた期間とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 任期途中で欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第6条 本委員会は委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員長が必要と認めるときは、本委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。
- 3 本委員会で検討された事項は、直近の施設長会での報告を行い、必要に応じた協議を行う。

(事務局)

第7条 本委員会の事務局は、川崎市社会福祉協議会福祉部施設・団体事業推進課に置く。

(その他)

第8条 この要綱を変更する場合は、施設長会において決定するものとする。

- 2 この要綱に定めるもののほか、本委員会の運営に関し必要な事項は、本協議会会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成29年6月21日から施行する。

この改正要綱は、平成31年4月17日から施行する。

この改正要綱は、令和3年2月17日から施行する。

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会

災害プロジェクト委員会 委員名簿

■委員任期：令和3年度・4年度

(順不同・敬称略)

No.	役職	区	委員氏名	所属先	所属先 役 職
1		川崎	見原 啓一	ビオラ川崎	施設長
2		幸	己斐 聡美	南さいわい・こむかい	施設長
3		中原	湯前 親	いせうら	施設長
4	◎	高津	平本 正志	すえなが	施設長
5		宮前	稲垣 仁久	わらく桃の丘	施設長
6		多摩	山口 皓史	生田まほろば	統括主任
7		多摩	坂元 直樹	ヴィラージュ川崎	入居係長
8	○	多摩	牧田 正之	多摩川の里	施設長
9		麻生	佐藤 香一	潮見台みどりの丘	副施設長
一		—	清水 完敏	老人福祉施設協議会	会長

◎委員長 ○副委員長

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会

人材プロジェクト委員会 委員名簿

■任期：令和3年度・4年度

(順不同・敬称略)

No.	役職	区	委員氏名	所属先	所属先 役 職
1	◎	川崎	古敷谷 耕平	大師の里	施設長
2		幸	伊藤 規子	しゃんぐりら	施設長
3	○	中原	岩壁 信行	等々力	副施設長
4		中原	荒川 雄一	ひらまの里	施設長
5		高津	小林 秀夫	新緑の郷	施設長
6	○	宮前	平山 みちる	鷲ヶ峯	施設長
7		多摩	神田 けい子	生田広場	施設長
8		麻生	吉野 英明	金井原苑	苑長
9		－	山下 久美子	川崎市社会福祉協議会 福祉人材バンク	所長
10		－	荻野 るりか	川崎市社会福祉協議会 総合研修センター	課長
11		－	塩原 啓	健康福祉局長寿社会部 高齢者事業推進課	
－		－	清水 完敏	老人福祉施設協議会	会長
－		－	松岡 恵美	株式会社シグマスタッフ	部長

◎委員長 ○副委員長

※本紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールによりお送りください※

川崎市社会福祉協議会 施設事業部 施設事業推進課 老人福祉施設協議会担当／松永宛

FAX : 044-739-8737 / メール : shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

【1月20日（金）必着】

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会

災害プロジェクト委員会 委員応募用紙
人材プロジェクト委員会 委員応募用紙

提出日 月 日

プロジェクト名	災害プロジェクト委員会 ・ 人材プロジェクト委員会 (希望するプロジェクト委員会に○を付けてください)
施設名	
氏名	
役職・担当	
連絡先	TEL : / FAX :
メールアドレス	

(お問い合わせ先)

川崎市社会福祉協議会 施設事業部 施設事業推進課 担当／松永

TEL 044-739-8717 / FAX 044-739-8737

メール shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

神奈川県社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会 各課題別プロジェクト会議の進捗状況報告について

1 介護報酬改定対応プロジェクト会議

(1) メンバー

白井施設長（富士見プラザ）、関口施設長（おだかの郷）

(2) 会議等

日 時：11月9日（水）14時～16時

会 場：神奈川県社会福祉センター7階 701 会議室

内 容：①実態調査に関する各ブロックでの取り組み状況について

②今後のスケジュールについて

③報告書作成の方針について

④その他

2 人材確保対応プロジェクト会議

(1) メンバー

古敷谷施設長（大師の里）、岩壁副施設長（等々力） ※清水会長担当プロジェクト

(2) 会議等

日 時：11月16日（水）9時30分～11時

会 場：オンライン

内 容：①検討課題の振り返りについて

②第21回かながわ高齢者福祉研究大会施設紹介コーナーの活用について

③福祉人材センターポータルサイト「介護福祉の仕事紹介」への協力依頼について

④その他

3 災害対応プロジェクト会議

(1) メンバー

牧田施設長（多摩川の里）、平本施設長（すえなが）、見原施設長（ビオラ川崎）

(2) 会議等

日 時：11月14日（月）10時～12時

会 場：オンライン

内 容：①各ブロックの取組状況について

②現場向け BCP 策定・運用に関する取組の検討について

③今後の取り組みについて

④その他

令和4年度県社協老人福祉施設協議会・課題別プロジェクト会議進捗状況
(◎リーダー/各委員については、令和4年度改選に伴い変更予定あり。)

テーマ	1 介護報酬改定対応	2 人材確保対応	3 災害対応
担 当 副 会 長 委 員	阿部匡秀副会長 県域 甘利悟委員 水島圭一委員 横浜 家鍋雄一郎委員 木内菜穂子委員 川崎 関口英志委員 白井裕一委員 相模原今井徹委員◎ 佐藤和夫委員 9名 ＜オブザーバー＞ 大久保祐次前担当副会長 ＜アドバイザー＞ 川原経営総合センター	清水完敏副会長 県域 森 弘樹委員 大津むつみ委員 横浜 碓井義彦委員 伊藤俊吾委員 川崎 古敷谷耕平委員◎ 岩壁信行委員 相模原坂本陽二郎委員 大塚小百合委員 9名 ＜オブザーバー＞ 川崎市社会福祉協議会	前田卓哉副会長 県域 川瀬和一委員◎ 関田智彦委員 里山樹委員 横浜 和田裕美委員 水越洋二委員 生田純也委員 川崎 平本正志委員 見原啓一委員 牧田正之委員 相模原横井頭委員 田村政喜委員 萩原貴委員 13名
当初目的	①次期報酬改定対応への訴求資料とするため、4ブロックにおける経営実態に関する調査をベースに共通する課題を抽出する。 ②4ブロックが実施する経営実態調査における共通項目をまとめる。 なお、対象とする施設種別は特別養護老人ホームとするとともに、提言活動については別途検討する。	①4ブロックの人材確保・育成状況の実態を共有する。 ②4ブロックの人材確保・育成に向けた対策・施策を共有する。 ③個別の法人単独では実施が難しい講演会や就職相談会など、施設連携のもと全県協働により推進可能な事業を検討する。	①4ブロックにおける行政との連携などの災害対応状況について情報を収集し共有する。 ②各施設単位での自助（BCP：事業継続計画、BCM：事業継続マネジメント）の取り組みを確立したうえで、共助による災害対応の在り方について検討する。 ③国等からの支援要請への神奈川県としての対応について検討する。
進捗状況	○令和6年度報酬改定対応に向け、4ブロックでの経営実態調査について、共通項目を設定し、令和3年度実績のデータをもとに報告書を作成する。 ○報告書について、次の3点を柱に取りまとめを行う。 ①介護現場の実態を考慮した職員配置基準とそれに見合った介護報酬の改定 ②特養機能強化に向けた加算取得を後押しできるような要件緩和（加算報酬） ③真の待機者の実態を踏まえた施設整備計画への反映	○令和2年度に無資格・未経験者に焦点を当て、プロジェクト委員の施設にて職員・施設長アンケートを実施した。 ○令和4年3月10日「明日から始める求人改革」研修会を開催。 参加者：28名 ○県全域での取組の一つとして、かながわ高齢大会の施設紹介コーナーの有効活用について検討。 ○その他、取組の対象の明確化と内容について検討。	○令和4年1月20日「介護現場と災害対応」研修会をオンライン開催。参加者：65名 ○4ブロックでの災害対応に関する情報交換及び、県全域での取組について検討。 ○研修参加者アンケートを踏まえ、BCPのポイントを整理し、会員へ情報提供を行う。 ○BCPの作成及び、実際に作成してみて感じた課題について情報共有する場として研修会の開催を検討。
令和4年度開催状況 今後の予定	6/8・11/9 次回、1月開催予定	11/16 次回開催時期調整中	11/14 次回開催時期調整中
令和3年度開催状況	5/31・10/22・2/18	7/14・9/30	12/16・2/9

第 21 回かながわ高齢者福祉研究大会 企画書（案）

- 趣 旨 高齢者福祉施設職員等による研究・実践活動や介護技術の発表の場として、ともに学び合い、研鑽することを目的に開催します。
神奈川県の高齢者福祉に携わる方たちの多くの熱意に支えられ、過去 20 回の大会では延べ 2,552 題の研究発表が行われました。本年度も、教育現場との協働により、学生や職業訓練生、一般参加者を対象とした福祉施設紹介コーナーを開設し、次世代の介護・福祉業界を担う学生に介護現場の最前線を発信します。
- 大会テーマ テーマ/サブテーマ
- 時 期 令和 5 年 7 月 5 日（水）
- 会 場 パシフィコ横浜 会議センター 3～5 階（受付は 2 階エントランス）
- 参加対象者 (1) 高齢者福祉施設・介護保険事業所等の職員
(2) 介護福祉士養成校等の学生および教育関係者
(3) 高齢者福祉施設等のご利用者、ご家族、ボランティアの方
(4) その他、高齢者福祉に関心のある方
- 内 容 (1) 研究発表
(2) 介護技術発表
(3) 施設紹介コーナー
(4) 介護用品・福祉機器等企業出展コーナー 等
- 参加者見込 1,150 名（養成校等無料招待者含む）
- 参 加 費 6,000 円（会員）、8,000 円（非会員）
- 主 催 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会
第 21 回かながわ高齢者福祉研究大会実行委員会
- 共 催 一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 高齢福祉部会
社会福祉法人川崎市社会福祉協議会施設部会 老人福祉施設協議会
社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 高齢者福祉施設部会
- 協 力 神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会・かながわ福祉人材センター・ハローワーク横浜
（予定）
- 後 援 神奈川県・横浜市健康福祉局・川崎市・相模原市
（予定） 公益社団法人神奈川県介護福祉士会・公益社団法人神奈川県社会福祉士会・
一般社団法人神奈川県精神保健福祉士協会・一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会・
公益社団法人神奈川県栄養士会・一般社団法人神奈川県医療ソーシャルワーカー協会

報告 都道府県指定都市老施協・デイ協会長会議（関東ブロック）

日時：令和4年11月24日（木）13：30～15：30

会場：テレビ会議

進行：全国老人福祉施設協議会事務局

1. 開会挨拶

平石会長（全国老人福祉施設協議会 会長）
 そのだ常任理事（全国老人福祉施設協議会 常任理事）
 田邊会長（関東ブロック老人福祉施設連絡協議会 会長）

2. 全国老施協からの説明及び意見交換

（1）全国老施協の令和4年度事業の実施状況について

平石会長、事務局より資料1に基づき説明

・昨年度ご意見をいただいた内容

1. 組織関係
2. 介護保険
3. 養護・軽費（ケアハウス）
4. 経営支援
5. 人材確保
6. ロボット・ICT
7. DWAT

【上記を踏まえ、令和4年度の重点事項】

1. 介護現場の革新
2. 経営力及び介護力の強化
3. 養護老人ホーム等の経営改善実現

【直近の動向】

・物価高騰への対応

令和4年度より内閣府が「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の中に「原油価格・物価高騰対応分」を設け、これを諸対策を行う各自治体に対して交付。9月に4,000億円の予算積み増しを行い、「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」を創設。交付金の使途については、原油価格・物価高騰対策の範囲内で各自治体に委ねられている。

・全国老施協の新たな取り組み

賛助会員

第1回全国老人福祉施設大会・研究会議～JS フェスティバル in 栃木～

（2）代議員等の選出に係る課題整理について

平石会長、事務局より資料2に基づき説明

- ・代議員選挙の実施に係る基準と手続に係る課題の整理
- ・代議員、内部理事の選任における法人内全施設加入要件の見直し
- ・会長選挙における記名投票の在り方の検討

（3）全国老施協で今後取り組む事項等について

平石会長、事務局より資料3に基づき説明

- ・ JS フェスティバル in 栃木のご案内
- ・ 第 10 回全国老人ホーム基礎調査ご回答のお願い

○各都県市の代表者より（１）（２）（３）について意見

- ・ コロナ禍、物価高騰により施設経営はかなり厳しい状況にある。そしてこの第 8 波で施設職員も疲弊しており、いつまで続くのだろうかという思いがある。
- ・ デイサービスの経営もかなり厳しい状況にあるので、全国的な課題として認識して欲しい。
- ・ 物価高騰について、自治体により大きく異なっていると認識している。
施設種別ごと一括して交付しているところもあれば、定員に応じて交付しているところもあり、どちらが良いというわけではなく、各団体からの自治体への要望活動等が大きな役割を持っているとここにいる代表者の方々は認識していただきたい。
- ・ 人材不足について、これまではどのように人材確保をするかという流れだったが、先日の行政の会議では ICT の活用による業務削減と外国人人材確保という部分が主になっており、大きな転換期にきているのかなと感じている。
- ・ 代議員の選出方法について、各都県市により会員施設の加入状況が異なるので、一律ではなく加入状況等に応じた対応をお願いしたい。
- ・ 要介護 3 以上が入居者の基準になっているが、ご本人の状況や施設の稼働率等を勘案しながら、自治体の判断により緩和して欲しい。
また、コロナ禍によりデイサービスとショートステイの利用数が減ってしまっている。
- ・ 処遇改善加算の事務負担軽減のため、一本化をして欲しい。
- ・ 全国老施協が厚生労働省や国会議員、国レベルで要望活動をするのとあわせて、各都県市が地元レベルで要望活動を行わないと、実際の効果が出てこないと感じている。
- ・ 各都県市、ブロックの大会や研究発表が今後はオンラインまたはハイブリッドになっていくと思います。ただ、かなり費用がかかってしまうので、全国老施協としてみんなが使えるようなオンラインの仕組みやプラットフォームを作って欲しい。
- ・ JS フェスティバル in 栃木は、これまでの全国大会と研究会議を統合したものである。
栃木県では対面で皆様にお会いできるのを楽しみにしておりますので、ぜひ多くの方のご参加をよろしくお願いいたします。
- ・ 関東ブロックより N95 のマスクを頂戴した。ありがとうございました。
第 8 波の影響もあるので、各会員施設に配布させていただく。
- ・ 最低賃金の引き上げにより賃金上昇、人材派遣会社にも多額の派遣料を支払っており、他の様々なものとあわせて施設運営を圧迫している状況にある。
その結果として、東京都では今年度実態調査を行ったが、速報値で収支差額率 1.28%、利用率 92.64%、赤字施設の割合 45.36%（従来型は 49.15%）
人材派遣料の平均 1,450 万円／1 施設、最高額は 1 施設で 1 億 400 万円を支払っている。
- ・ 横浜市は特養約 150 施設、年間で 600 床ずつ施設整備を行って増やしている。
今年度より、全体会議だけではなく、市内を 4 つのブロック（東西南北）に分け、より地域レベルでの交流、情報交換を大切にしている。
また、横浜市でも毎年実態調査を行っており、速報値になりますが、
収支差額率 3.1%、利用率 92.32%（ショートステイ 81.15%）、
従来型の課題は職員不足、ユニット型は待機者確保というところが見えてきた。
東京都同様、全体的に人材派遣会社を活用している割合が多くなっている。

3. 閉会挨拶

若山副会長（全国老人福祉施設協議会 副会長）